

LMS未導入の現場でICT活用インフラをどう作るか

角南 北斗^{*1}

Email: hello@shokuto.com

*1: フリーランス (Webデザイナー)

◎ Key Words 教室外学習, 学習デザイン, 教材開発

1. はじめに

LMS (Learning Management System) は、教育にICTを効果的・効率的に活用するためのインフラとして重要なものである。近年、こうした主張はずいぶんと一般に認知されてきた感があるが、大学や専門学校の実態はというと、LMSが未導入だったり、導入されてはいるものの一部の授業でしか活用されていない、といったところが多いのではない。LMSをうまく活用できなければICT化による成果が出にくく、成果が見えないとICT環境の整備が進まず活用もままならない。そうした悪循環に陥ってしまうと、現場ごとのICT環境の格差は広がる一方となるだろう。

筆者は、これまで非常勤講師として大学や専門学校などで授業を担当してきた。授業ではLMSを積極的に活用して、教師の負担を減らしたいと考えている。しかしながら、教育機関側が用意した環境は十分でないことが多いため、LMSには分類されない個人向けウェブサービスを活用することで不足分を補ってきた。本稿は、そうした実践で得られた知見を関係者に公開することで、LMS未導入の現場でICTを活用したい教師を支援し、さらには現場へのLMSの導入・活用を促すことを目的とするものである。

2. LMSの代替サービスの選定基準

本稿が扱うLMSの機能は、大きく「学習者に資料を提示・配布する機能」と「学習者の作成した文書を回収する機能」の2つのみとする。もちろん有名なLMSにはもっと多くの便利な機能が備わっているが、LMSではない個人向けサービスを考える場合、優先度の高い基本的な機能に的を絞らなければ代替品にはなりえない。

また、なるべく多くの授業で本稿の知見が活かせるよう、授業スタイルによらない汎用的な機能に

絞って論じるものとする。そのうえでサービスの選定には、さらに以下の点も重視した。

- * 無料もしくは低コストで使える
- * 多くの利用環境に対応している
- * 設置や運用に専門的知識を必要としない
- * 教師や学習者の手間が少ない

筆者は、アプリケーションの操作説明を中心とする実習型の授業や、情報デザインやマネジメントなどに関する講義型の授業を10年ほど担当してきた。その実践の中で実際に調べて試した範囲ではあるが、ベースとして「はてなブログ」もしくは「Jimdo」を使い、そこに「Dropbox」や「Google Drive」を組み合わせるのがよい、という結論に至った。その詳しい理由と方法を以降で述べる。

3. サイトやブログをベースに使う

LMSに最低限求める機能の1つである「学習者に資料を提示・配布する機能」は、テキスト、外部サイトのURL、WordやPDFなどのファイルのダウンロードURLを学習者に伝えられる機能、ということである。

筆者はウェブデザインが専門ということもあって、無料のホームページ作成サービス、あるいはブログサービスが使えるのではないかと考えて調査を続けてきた。サイトないしはブログを1つ設置し、授業ごとに専用ページを作成して、そこにテキストやリンクを掲載していくという形である。ブラウザで確認・更新できるため、閲覧に特別な環境を求めることもないし、設置から運用まで（サービスによって多少の癖はあるが）専門知識もさほど必要とされない。

さまざまなサービスに登録して調査した結果、ホームページであれば「Jimdo」が、ブログであれば「はてなブログ」が良く、実際に授業でも使い

続けている。その理由としては、シンプルなデザインのレイアウトが用意されていること、表示される広告が控えめなこと、アクセス制限の機能を備えていることが挙げられる。特に最後のアクセス制限については、無料で用意されているサービスがほとんどない。パスワードを1つしか設定できない簡易的なものではあるが、関係者以外の閲覧を減らす仕組みとしては有用だと考える。

Jimdoは、ページ単位で凝った作り込みが可能であるが、逆に複数ページで同じような作業を行う際に手間がかかりやすい。一方はてなブログは、マークダウン形式で更新する形にしておけば、テキストのコピー&貼り付けで複数ページをさっと統一できる。同じ科目で複数クラスを担当している場合などは、はてなブログの方が運用の手間が省けるだろう。

4. 配布はファイル共有サービスで

掲載する情報がオリジナルのファイルである場合、URLをサイトやブログに記載して学習者にダウンロードしてもらう形になる。そこでファイルのアップロード先が必要になるが、サイトやブログのサービスが提供している機能は、リンクの表示のコントロールがしにくかったり、アップロードできるファイルに制限があったりして、上述の2サービスも含め使い勝手がよくない。

そのため、DropboxやGoogle Driveにファイルを置き、アクセス権を与えた共有リンクを発行、それをサイトやブログに掲載する、という運用がよいだろう。公開したいファイルをまとめて1つのフォルダに入れておけば、複数の授業で参照させたり、不要になったときに削除したりするのも簡単である。運用しながらファイルのバージョン管理ができるのも利点だろう。

5. ファイル回収の仕組みが難しい

LMSに最低限求めるもう1つの機能として「学習者の作成した文書を回収する機能」があるが、こちらは代替サービスに乏しい。学習者がファイルをアップロードできる場所を設置できるのは、筆者の調査した限りでは、Dropboxのファイルリクエスト機能ぐらいしかない。置き場所にするフォルダを設定し、発行されるリンクを学習者に伝えれば、アップロードができる画面にアクセスし

てもらえる。ただし、学習者がアップロードする際にメールアドレスの入力を求められる。このメールアドレスはアカウント認証に使っているわけではないようなので、ダミーを使い回すような形で大丈夫そうだが、それならば入力なしで送信できる形がほしいところである。

もし学習者が作成する文書がテキストのみということであれば、Word文書などで提出してもらうのではなく、Googleフォームに直接書き込んでもらう形が使えるだろう。これならば認証不要で、提出内容はスプレッドシートに自動的にまとめられて便利である。ICT環境も考慮しつつ授業をデザインすることが、教師には求められる。

6. おわりに

この報告を読まれた方は「それならば、SlackやGoogle Classroomといったサービスを使えばよいのでは」と思われたかもしれない。筆者がそうしたサービスを提案しないのは、学習者の負担が大きいため。全学的に、あるいは多くの授業で活用するサービスならともかく、1つの授業で使うだけのインフラに対して、学習者全員にアカウント登録まで求めるのは難しいと考えている。

また本稿で紹介した手段にしても、各自のスマートフォンを含むコンピューター、プロジェクター、インターネットが使える環境というのが前提である。LMSが十分に使われていない現場では、こうした環境があるのは、いわゆるPC教室のみということが一般的であろう。筆者は担当授業をすべてPC教室で行うようにしているが、部屋数に限りのあるこの手の教室を「PCの使い方を教えるのではない授業」で利用することに対して、学校事務側から必要性を尋ねられることも多い。

このように、LMSが活用されていない現場というのは、学習者にも、学校事務側にも、ICTから距離を置いている他の教員にも、教育のインフラとしてのICT活用は「めずらしいこと」と認識されている、という現実がある。そこを変えていかなければ、授業担当者の教育環境はもちろん、機関全体の教育環境の質の向上は望めない。本稿を通じて筆者が多くの教師に伝えたいのは「LMSが未導入でも頑張れるよ」というのではなく「LMSの導入のために、LMSが実現することを体感してほしい」というメッセージである。